



- 1 学校の教育目標 「気づき、考え、行動する」生徒の育成
 2 経営の基本方針 ○魅力ある学校づくりの推進 ○豊かな人間性とたくましい心身の育成 ○確かな学力の定着と向上 ○学校、家庭、地域が一体となった教育の推進

※ 太字ゴシックは川内中学校の重点項目

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			考察及び改善方策(○考察●改善方策)	学校関係者評価委員の評価
			教職員	生徒	保護者		
生徒指導	いじめや非行への対応	いじめや非行を許さない毅然とした態度で生徒指導に取り組んだ。	3.8	3.9	3.0	○ 毎月実施している『「学校生活を明るくする」ためのアンケート』を貴重な情報源と捉え、例えば、一度書いて消しゴムで消している部分があれば、しっかり内容を確認するなど、生徒からのサインを見逃さないよう心掛けている。 ● 不登校生に対して、学級担任は可能な範囲で家庭訪問や電話連絡を行っている。また、近年はロイノートによる情報共有なども行っている。ただ、登校刺激を与えるまでには至っておらず、不登校生対策は十分とは言えない。 ● 本校は真面目な生徒が多く、概ね学校の決まりなども守ることができている。ただし、規範意識に欠けた行動をとる生徒が一定数存在しており、そういう生徒に対して、教師は毅然とした態度で接していかなければならない。 ○ 学年主任を中心とした学年部内での情報交換を基本として、生徒指導主事との連携や、生徒指導部会による学年を越えた情報共有等を実施することができている。今後もチームとしての取組を継続していく。 ○ 近年、本校でも生徒間のSNSにまつわるトラブルや問題が多発している。問題がおこった際には多方面から情報を収集しながら、解決に向けて丁寧に対処している。今後も情報モラルに関する指導が必要である。	・ 教員が、様々なかたちで生徒のために動いてくれていることに感心する。今後も生徒とのコミュニケーションを大切にしながら見守ってほしい。 ・ 不登校に関しては様々な原因があると思う。ケース・バイ・ケースではあるが、生徒に寄り添いながら信頼関係を深めることが大切である。 ・ 生徒は真面目で、挨拶もよくできている。また、地域との関係性も親密である。そういった生徒を育てる上で重要となるのは、やはり家庭での躾だと思ふ。 ・ いろいろな生徒がいる中、生徒指導は大変だと思う。チームとして連携しながら取り組んでいただいていることをありがたいと思う。 ・ SNSに関するトラブルは学校外で起きることが多く、家庭における責任が大きい。もっと親子で向き合う時間、対話する時間を増やすべきではないか。
	不登校への対応	不登校解消に努めるとともに、不登校生に対して適切な指導や支援を行った。	3.3				
	基本的生活習慣の定着	挨拶や決まりの遵守など基本的生活習慣が身に付くよう、指導や支援を行った。	3.5	3.7	3.0		
	生徒指導体制の充実	校内の連携を図り共通理解のもと、適切に生徒に関わる積極的な生徒指導に取り組んだ。	3.6				
	相談体制の充実	教育相談等を通して、生徒のいじめや悩みの早期発見・早期対応に努めた。	3.6	3.4	3.0		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	教科の特性を生かしながら、基礎・基本の定着を図る取組を継続して行った。	3.4	3.3	2.8	○ 英語は実際に声に出して話すことが大切であるが、英語科の授業では、タブレットに自分が音読したものを録音し、ネイティブの発音と何度も聞き比べることによって、正しい発音を身に付けるといった試みも行っている。 ● 今回のアンケートで、保護者の自由記述欄に「もっと宿題を出してほしい」という意見が見られた。本当に宿題の量が少ないのか、実は出された宿題を生徒が家庭でやっていないのかについて、しっかり見極める必要がある。 ○ 昨年に続き、東温市環境保全課と連携しながら四国電力やパナソニックから講師を招き、理科の出前授業を行った。授業では様々な機材を使用した体験活動も盛り込まれ、意欲的に活動する生徒の姿が見られた。 ● 進路学習は3年生だけでなく、入学してからの3年間を系統立てて進めていくことが大切である。家庭への情報発信なども積極的に行いながら、学校として生徒全員の進路保障につなげていきたい。 ○ タブレットを活用すれば、複数の意見を同時に共有したり、ホワイトボードに見立てた画面に共同で書き込みをしたりすることができる。こういった活動を取り入れながら、生徒が主体的に学習を進められるように授業を組み立てた。	・ 東温市が主催する「未来塾」に参加する生徒も増えているようなので、情報交換しながら連携してみるのもいいのではないかと。 ・ 教職員、生徒、保護者それぞれの数値を見て、正直、教員任せにしている保護者の無責任さが表れているのではないかと感じた。 ・ 社会とつながるという点において、出前授業の実施は大変よかったのではないかと。来年度以降も継続していただきたい。 ・ 入試方法も変わってきており、少しずつ学校の手から離れていくように、PTAを中心に情報交換の場所がつかないものか、との思いもある。 ・ 今後もタブレット等の積極的な活用をお願いしたい。ただ、そういったICT機器を活用する際には、生徒の能力差に配慮しながら指導してほしい。
	家庭学習の充実	生徒一人ひとりの実態や学年に応じた、家庭学習の充実を図るための指導・助言を行った。	3.2	3.1	2.4		
	体験的な学習や問題解決的な学習の充実	体験的な学習や問題解決的な学習を、積極的に授業に取り入れた。	3.5				
	進路指導の充実	進路学習指導計画にもとづいて進路学習を実施し、自己の生き方を考えさせた。	3.5	3.2	2.5		
	学び合う授業の創造	生徒の学習意欲を高めるために、学び合いの場を工夫して設定した。	3.4				
豊かな心・健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	教育活動全般を通じて、生徒の道徳性を身に付けようとした。	3.5	3.5		○ 生徒の道徳的実践力を高めていくうえで、言うまでもなく道徳の授業の果たす役割は大きい。学年内でしっかりと授業に向けた教材研究を行い、すべてのクラスで同じ道徳的価値を共有できるように努めている。 ○ 学校生活アンケートに限らず、アンケートを実施した際は、その結果や内容から、いかに適切かつ迅速に対応できるかが重要である。望ましい集団づくりのためにも、効果的にアンケートを活用していきたい。 ● 昨年度に続き、今年度も体調不良者の急激な増加により学級閉鎖の処置をとったクラスが出た。今後、気温が大きく下がっていく状況の中、手洗い・うがい・換気等の習慣を生徒にしっかりと定着させる必要がある。 ○ 人権に対する意識や感覚は、日々の生活の中で身に付けていくものである。多くの人と関わる学校は、生徒にとって人権について考える機会を数多く与えてくれる場である。様々な場面を捉えて、生徒に人権について考えさせたい。 ○ 学習面だけでなく、運動面、文化面など、個々の生徒が自分の能力を発揮しながら活躍できる場を、学校として数多く設定していくことが重要である。それによって生徒に自己有用感を醸成させたい。 ● 生徒数の減少に加え、令和5年度より部活動希望制に移したこともあり、現在、十分な部員数が確保できていない部も存在する。地域移行の流れもあることから、部活動数の精選を検討する必要があるのではないかと。	・ 「人として、他者を思いやり、共に生きる」という生き方の基本を学ぶために、現在の取組を継続してほしい。 ・ アンケートは、解答者が本音で答えられることが重要である。その意味からも、得られた結果については慎重に対応してほしい。 ・ 学校の取組も大切であるが、まずはそれぞれの家庭ができる体調管理に向けた取組をしっかり行うことが必要だと思う。 ・ 普段の生活の中で気になる発言や行動を見つけたときに、その都度、丁寧に指導していくことが大切ではないか。 ・ その活動で生徒にどんな力を育むのか、誰がどう関わっていくのかを、学校運営協議会でしっかり協議し、学校・家庭・地域で共有できればと思う。 ・ 生徒数の減少により、部員の確保は年々難しくなってくると思う。部活動については様々な点において見直す時期にきていると思う。
	仲間づくり・集団づくり	学校生活のアンケートやhyper-QUの結果を活用して、望ましい集団づくりに努めた。	3.5	3.7	3.2		
	健康づくり・体力づくり	日々の生活の中で、健康管理や体力作りに努めるよう生徒に指導・助言を行った。	3.5	3.6	2.8		
	人権・同和教育の推進	教育活動全般を通じて、生徒に人権感覚を身に付けさせるための指導を行った。	3.6				
	自尊感情の高揚	生徒一人ひとりのよさに目を向け、それを称揚することによって自尊感情の高揚に努めた。	3.7	3.4			
	部活動の充実	部活動の意義を生徒に理解させ、充実した部活動を展開した。	3.0	3.5	3.2		
特別支援教育	特別支援教育の充実	生徒一人ひとりの実態や特性の理解に努め、生徒の状況に応じた学習指導や助言を行った。	3.5	3.5		○ 支援員を含めた教職員全員が、個々の生徒の特性をしっかりと理解した上で、個に応じた支援を進めていくことが重要である。また、関係機関とも連携しながら、先を見据えた指導を行っていくことも必要である。	・ 個性を大切にしながら、生徒の力を伸ばしてくれていると感じる。今後も一人一人の特性を理解しながら、その生徒に応じた対応をお願いしたい。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	継続した登下校指導を実施し、登下校の安全確保や、生徒の交通ルール、マナーの向上を図った。	2.9	3.8	3.3	● 地域の方から「生徒の登下校時の態度が悪い」とお叱りを受けることが度々あるにもかかわらず、生徒自身は評価が高く、交通ルール遵守に対する意識の低さが伺える。今後も継続的な交通安全指導が必要である。 ○ 毎年、実施している「かわうちCDC(旧クリーンかわうち)」を今年度も実施した。当日は雨天であったため、生徒は自宅待機となったが、教員は現地へ行き、集まってくれた地域の方と様々な情報交換を行うことができた。	・ 交通マナーについては、車(運転手)から見た視野など、車を運転する立場に生徒を立たせて考えさせる必要があるのではないかと。 ・ 南海トラフ地震を想定して、防災意識を向上させる必要がある。生徒を中心に、家庭・地域の防災力を高める活動が展開できればいいと思う。
	防災教育の充実	保護者や地域との連携を図り、防災に関する生徒の意識を高め、「自助から共助」への防災教育を展開した。	3.3	3.8	2.9		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	「学校通信かわうち」やホームページなどにより、学校の情報を分かりやすく公開した。	3.6	3.7	3.0	○ 学校行事をはじめ、様々な活動について、なるべく早くホームページにアップするよう心掛けている。保護者からは「もう少し月行事を早くアップしてほしい」等、ホームページに対する要望も出ており、可能な限り対応していきたい。 ○ 1年生「坊っちゃん劇場」の観劇、2年生「ジョブチャレ」での地元企業の活用、3年生「一日総合」での東温市在住外国人の講師招聘など、今年度も様々な活動において地域の施設・人材を積極的に活用した。	・ ホームページでの情報発信は、生徒の活動の様子が伺えるのでとてもいいと思う。不審者対応時のマチコミの情報発信も非常に効果を発揮している。 ・ ジョブチャレは賛否両論あると思うが、地域とのつながりにおいても意義があるので、様々な意見を取り入れながらアップデートしていけばいいと思う。
	地域教材の有効活用	地域の人材や施設・自然などを取り入れた授業や活動を行った。	3.6	3.6	2.7		
特色ある学校づくり	ボランティア活動の充実	生徒がボランティア活動への興味や意識を高めるための、工夫や支援を行った。	3.2	2.9	2.5	● アルミ缶やエコキャップの回収運動など、日常的にボランティア活動に取り組んでいるにもかかわらず、生徒・保護者の認識が低い。活動の成果を目に見える形で紹介することで、活動に対する意識の向上につなげていく。 ○ 「魅力ある学校づくり」の一環として、仲間づくりや集団づくりを目指して生徒会が企画した取組「Eプラン」を開催するなど、本校では生徒の主体性を重視している。その際、教師は側面から支援するスタンスをとるようにしている。	・ 朝の挨拶運動やアルミ缶回収などを早朝から行っている姿を見て、すばらしいと思った。生徒はもっと自信をもっていると思う。 ・ 体育祭をはじめとする様々な行事に生徒が自発的に取り組み、しっかりと成果を上げている。とてもすばらしいと思う。
	教育目標の具現化	教育目標「気づき、考え、行動する生徒」に対する意識を定着させるための、工夫や支援を行った。	3.4	3.4			
施設・設備の充実	ICTの有効活用	教育効果を高めるために、電子黒板やタブレットPCなどの教育機器を用いた授業を行った。	3.2	3.5		● 本校では、各教室に電子黒板が設置されている。これは東温市ならではの設備環境であり、他市では見られないものである。タブレットとともに、こういった機器を有効に活用して「わかる」授業を実践していきたい。 ○ 日常的な施設の安全点検・確認に加え、今年度は、特別校舎の大規模改修工事に対する安全対策も考慮しながら、日々の学習活動を進めていった。幸い、大きな事故等が起きることなく現在に至っている。	・ 自分たちが学生の頃にはなかった機器を使った授業が行われている。これからは時代にあったスタイルで授業を行ってほしい。 ・ 生徒の安全を一番に考えることが重要である。例えば、3階の渡り廊下は雨の日はずりやすい状態になると思うので、対策をお願いしたい。
	施設・整備の安全管理	定期的な安全点検の実施により、安全・安心な教育施設環境を確保した。	3.5	3.6	3.3		